

世界に広がる輪

国際交流を行う個人や団体を支援する国際交流事業を活用し、富良野高等学校2年生のラグビー部員2人が、7月21日から29日にニュージーランドで開催されたラグビーキャンプに参加しました。

岡市民協働課 ☎39-2311

コミュニケーションに自信がついた

私がニュージーランドに行つて感じたことを、いくつか書きたいと思います。

まず、始めにニュージーランドの人たちは、とても優しい人たちが多かったです。なぜ、そう思ったかと言うと、私が困っているときに、ホストマザーやお店にいた人が「どうしたの?」と声をかけてくれたり、ホストマザーと一緒にいるときは、いろいろな話をしてくれました。

私は、コミュニケーションが苦手で、特に英語が苦手です。富良野で観光客に道を聞かれても友達に任せたり、駅員さんに頼んだりしていましたが、今は道を聞かれても話せるようになりました。なぜ

なら、海外へ行つてコミュニケーションをしたことで自信がついて話せるようになり、とても良い経験になりました。

次に感じたことは、食事のことです。朝はシリアル、昼はサンドウィッチ、夜はいろいろな物を食べました。朝と昼は固定で、どこの家庭でも同じでした。それと、お菓子がとても甘くて驚きました。自分の口には甘すぎて、合いませんでした。

次に感じたことは、「ゴミをポイ捨てる学生が多かったことです。食べたバナナの皮をグラウンドに捨てていました。「ゴミ捨て捨てるの?」と聞くと、「自然に無くなるから良いんだ」と言っていました。ニュージーランドには至る所にゴミ箱があるにも関わらず、ポイ捨てをしていて、ゴミ捨てたところが日本と違うと思いました。私は、よく観光客がポイ捨てるマップを拾いますが、やっぱり、ポイ捨ては無くなってほしいです。

次に感じたことは、日本製の車がたくさん走っていたことです。ほぼ日本の車で、世界中に日本の物があることに驚きました。

このラグビーキャンプは自分にとって、コミュニケーション能力が上がって、海外の文化を学び、たくさんのことを経験することができました。この経験を活かして、日常生活でも英語を使っていきたいと思っています。



中田さん

吉岡さん

吉岡慶悟さん



これからの人生に活かしたい

僕が今回、ニュージーランド合宿に参加するにあたり、ラグビーを始めて数カ月だったため、「ラグビーの経験を積みたい」「もっとラグビーを知りたい」「ニュージーランドで本場のラグビーにふれたい」と思い参加しました。

ニュージーランドでは、日本と違うプレイが見られたり、選手がとても大きく体格差の違い、キックがすごく飛ぶなど、差を感じました。それらを見て、自分が参考になれる所を取り入れて、今後のラグビーに活かしたいと思いました。



▲市長へ参加報告。左からラグビー部顧問坂口先生、中田さん、吉岡さん

また、試合だけではなく、毎日練習し、「これは良い!」と思っただ点を、今後の部活に取り入れていこうと考えています。

ホームステイは、初めての経験でしたが、僕は幼稚園のころから英会話教室に通っており、英語が好きで得意なので、フレンドリーに接することができました。自分の英語力が通用したので良かったです。

ニュージーランドの人たちは、ラグビーコーチや店員さんなどと、とてもフレンドリーで、日本人との文化の違いを感じられたことも興味深かったです。

ニュージーランドには、ヘビがいなくて、卵が被害にあわず、鳥が多く繁殖しており、動物園にはさまざまな鳥がいました。天敵がないため、翼が退化し、飛べない鳥もいて、印象的でした。食べ物については、主食はイモ類で、肉や野菜も美味しく、甘くないジュースのような飲み物もヘルシーで、とても美味しかったです。

僕は今回の合宿で得た体験の中で、人とのコミュニケーションの取り方などを、今後の学校生活とラグビーの部活動だけではなく、これからの人生に活かしていきたいと思っています。

中田竜馬さん